

特集

レジャー救急,これ1冊!

救急（医学/医療）は幅が広く、懐の深い分野です。人が生活するすべての領域が対象となり、それぞれの領域でさまざまなチャレンジができることで、人としての幅や、人と人とのつながりが広がっていきます。救急の先駆者・諸先輩方がそのような努力を重ねてきた結果、今の救急があると思います。

私自身、海のスポーツをしてきた関係からその領域の現場で活動してきた結果、原著論文や単行本、エッセイなどが書けたように（日救急医学会誌 11：111-117, 2000/『アウトドアライフ救急マニュアル—EMERGEN-SEA』 荘道社/月刊新医療 43：86, 2016）、読者の皆さまも、関心のある領域や、趣味や特技を活かした領域での救急を考えて実践してほしい、自分ならではの/自施設ならではの、そしてその領域で社会に必要とされる救急を先進的に開拓してほしいという意味を込めて、今号では“レジャー救急”という新たな救急の一分野を提案し、特集テーマとしました。過去に本誌でも「野外活動と救急診療」と題したアウトドア関連の特集（2013年7月号）はありましたが、今回はより“レジャー＝遊び”に焦点を当てています。読者の皆さまにはまず、その目次立てから楽しんでいただければ幸いです。

余暇が増え、その時間を有意義に過ごそうとする社会で、自然を相手にするスポーツはもちろん、キャンプやバーベキューなどのアウトドアレジャーの人气が高まるとともに、その種類は多様化し、広がっています。一方で、レジャーを楽しむ季節や場所、状況が広がることによって、それだけさまざまなことが起こり得ます。このように人の生活が多様化すれば、それに関する救急も多様化し、進歩していきます。日常診療でこのような“レジャー救急”に出会うことは少ないかもしれませんが、多様な症例に外来で遭遇するだけでなく、現場での対処や指導など幅広い対応を求められる、まさに救急医が頼りにされる分野であると考えて、本特集ではできるかぎり多くの“レジャー救急”事例を網羅しました。実践的な救急処置・対応の方法はもちろんのこと、鑑別診断や疫学まで解説された、「救急医がこれ1冊持っていたら安心!大丈夫!」な特集となっています。

“レジャー救急”という分野はより多様化し、まだまだ広がっていくものと思われませんが、各領域での専門家は決して多くありません。つまり、専門家になるチャンスに溢れています。人生の楽しみとしてのアウトドアレジャーが、より楽しく安全なものとなるために本特集が役立つことを願うとともに、1人でも多くの救急医が“レジャー救急”という分野を気にとめて、何かを経験した際にはその一例を大切に、学会報告や症例報告から、論文として、そして救急の一分野として進歩していくことを期待しています。